

4/1 町民の新たな交通手段として あいなんバスが3路線で運行を開始

宇和島バスの路線廃止に伴い、4月から新たに西海地域と久良地区の3路線であいなんバスの運行が開始されました。

従来の武者泊・船越線を延長した「武者泊・城辺線」、新設された「久良・城辺線」、「外泊・城辺線」の3路線が運行されることにより、買い物や通院などの日常生活における交通手段が継続して確保できるようになりました。

路線新設に伴い新調されたバスには、柑橘や海を連想させるカラーとなーしくんが描かれており、初日は多くの利用者を乗せて満開の桜の中を走行しました。



愛媛
CATV
動画



▲外泊に到着したあいなんバス(外泊・城辺線)

4/12 西林寺で100回忌の法要 朝鮮迎日湾遭難者の鎮魂を祈る

朝鮮浦項近海で遭難した犠牲者の弔い上げである100回忌が西林寺で執り行われました。

明治44年、西外海村内泊の漁民が朝鮮で「愛媛村」を開拓し近海でサバ漁を行っていましたが、大正12年4月12日、浦項近海で大暴風雨に遭遇した漁船が沈没。この時の犠牲者は640人にも上り、内泊出身である34人の尊い命も失われました。

この日の法要は、内泊地区入り口に建てられた慰霊碑に遺族が集まって焼香を行った後、西林寺本堂へ移動し犠牲者の冥福を祈るために仏前で読経を行いました。



愛媛
CATV
動画



▲犠牲者を弔う遺族の方々

4/19 災害時の事業継続、早期復旧 LPガス非常用発電機の寄贈式を開催

LPガス非常用発電機の寄贈式が役場本庁第1会議室で行われ、株式会社大塚商会の齋藤廣伸取締役兼専務執行役員から清水雅文町長へ目録が贈呈されました。

この贈呈式は同社の創業60周年記念事業の一環として、災害時に自治体の事業継続や情報通信関係を維持することを目的として行われたもので、2基のレイパワー社LPガス非常用発電機が町へ寄贈されました。

発電機はすでに城辺保健福祉センターと西海保健福祉センターに設置されており、清水町長は、「両センターは災害時における救護所の設置や支所機能の移転先として地域の防災拠点施設となるため、業務を継続していくための非常用電源が確保できた」と感謝の言葉を述べました。



愛媛
CATV
動画



▲左から 齋藤廣伸取締役兼専務執行役員、清水雅文町長

4/24 遊休農地の再生から地域の活性化に 地域農業の将来を見据えた取り組みが始動



▲剪定・粉碎の作業を協力して行うメンバー 11人

荒れた農地と既存の河内晩柑^{かわちばんかん}の樹木の再生を目標に、「株式会社フルーツアイランド・マルエム直販」のメンバーによって生育環境の改善に向けた作業が行われました。

今回の作業は御荘平山地区の樹園地で行われ、約20年前から管理されていない河内晩柑の樹木を腰上の高さに剪定することで新たに芽吹かせ、改植と比べ収穫量の早期回復を見据えたものです。

遊休農地の増加や後継者不足などの課題を踏まえて代表の河野仁^{ひとし}さんは、「今回のような遊休農地再生の取り組みから柑橘産業^{かんきつ}、そして地域の活性化に繋げていきたい」と話しました。

4/28 町と共に地域経済の回復を 宇和島信用金庫から寄附金の贈呈



▲左から 清水雅文町長、清家義幸理事長

役場本庁町長室で寄附金贈呈式が行われ、宇和島信用金庫から100万円の寄附金が寄贈されました。

この寄附は宇和島信用金庫の創立100周年を記念して行われたもので、贈呈にあたり清家義幸^{よしゆき}理事長は「これまでのご恩に報いるため、寄付金を贈呈させていただきます。今後も地域に寄り添ったきめ細やかな支援を行い、愛南町と共に地域経済の回復、成長を力強く後押ししていきたい」と話しました。

また、清水雅文^{まさふみ}町長は感謝の言葉として、「町の総合計画に掲げるまちづくりの将来像である『ともに彩を育むまち』の実現のため、有効に活用させていただきます」と述べました。



愛媛
CATV
動画

5/2 医療物資の代行輸送を想定 民間ヘリコプターを活用した災害想定訓練を実施



▲ヘリポートに着陸した4人用小型ヘリ

大規模災害に備え、民間ヘリコプターを活用した物資の輸送と人員搬送の訓練が株式会社レクザム愛南工場で行われました。

この訓練は一般財団法人国際災害対策支援機構との防災・災害対策の取り組みとして、愛媛県による医療物資などの輸送が困難な場合を想定した代行輸送と災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣を想定して実施されました。

訓練後には意見交換会が行われ、同機構により災害発生翌日には空撮による被害状況の確認ができることや映像を供給することで民間と自治体が分担して作業が行えること、初動対応の速さが災害時の状況を迅速かつ正確に把握できることなどについて討議しました。



愛媛
CATV
動画



篠山ジュニアソフトテニスクラブ大健闘 全日本大会・四国大会に出場決定



愛媛
CATV
動画



4月16日(土)、「第39回全日本小学生ソフトテニス選手権大会 愛媛県予選」が今治市で開催され、篠山ジュニアソフトテニスクラブの岡崎さん・木下さんペアが女子の部で準優勝、北伊予小学校6年とペアを組む青木さんが男子の部で4位入賞を果たし、7月28日(木)から4日間にわたり秋田県大館市で開催される「第39回全日本小学生ソフトテニス選手権大会」に出場します。

また、同大会で6位に入賞した岡田さん・吉見さんペア、7位に入賞した岡原さん・蕨岡さんペアは7月16日(土)から2日間にわたり徳島県徳島市で開催される四国大会に出場します。

2年連続で全日本大会の切符を手にした青木さんは、「昨年はコロナの影響で全日本大会が中止になりました。今年は開催されることに感謝し、ペアと協力して1回でも多く勝てるよう全力でプレーしたい」と1年越しの意気込みを力強く述べました。

地域おこし協力隊 活動日記

「四季が彩る郷土料理」

皆さん、こんにちは。農業支援センター地域おこし協力隊の名田太郎です。

木々が一斉に芽吹き、初々しい若葉の緑で山々が活気付いています。その中で、芽吹きたての木の芽(山椒の若芽)を見つけました。木の芽和えや魚の木の芽焼きが有名で、その香りは「四季が彩る郷土料理」を連想させます。

ご存知の方も多いと思いますが、2013年に日本の和食という食文化がユネスコ無形文化遺産に登録されました。その理由の一つが旬の食材と季節の飾り付けによって食事の場で季節感を楽しむことができるという点です。他にも、年中行事に合わせて特別な料理が振る舞われていることなど、日本ならではの食文化が評価されています。

愛南町には海、山、里と表情豊かな自然が広がっており、町と共に育まれた行事に振る舞われる郷土料理として多様な食材が生かされてきたことで、その地域がどんな自然に恵まれ



ているのかをうかがい知ることができます。そして、一年の生活サイクルの中で地域特有の行事を通じ、地域の絆を深めてこられたことだと思います。

近年、食材の作り手がいなくなったり、継承が途絶えたりしてしまい存続自体が難しい郷土料理もあると聞いています。また一方では、気候変動など環境の変化によって作物の生育に影響を与えることも少なくはありません。

そのような中、郷土料理をいつまでもおいしく食べるためには、地域の自然を守り、持続させることも大切なのかもしれません。